

令和5年産 大豆情報 (Vol.2)

令和5年8月14日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612

Fax : 0225-95-2999

技術情報はこちらのQRコードからも！



今後のポイント:開花期を基準に**紫斑病の適期防除**を行いましょう。病害虫・雑草防除、排水対策の再点検

6～8月上旬の気象経過と一か月予報

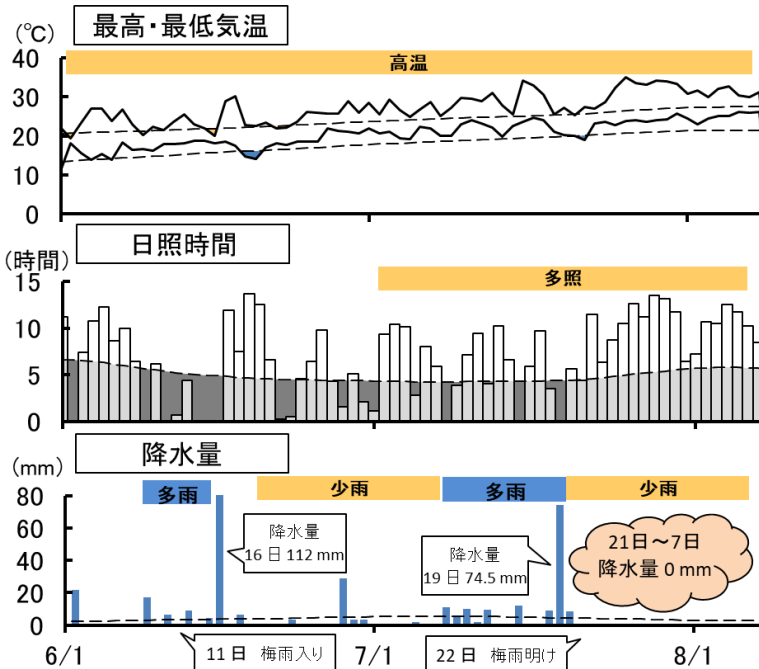


図1 気象経過(アメダス石巻)

※上:最高・最低気温、中:日照時間、下:降水量
※点線は平年値

◆7月:高温多照。

・7月の平均気温は平年より3.4℃高く、日照時間は平年比159%と多く、降水量は7月中旬の降雨が影響し、平年比100%と平年並になりました。

◆8月上旬:高温多照。少雨。

・日平均気温は平年より3.7℃高く、日照時間は平年比164%と多く、降水量は平年比8%と少なくなりました。

◆向こう1か月予報(8/12～9/11)

仙台管区気象台 8月10日発表

1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

【気温】 10 20 70

【降水量】 20 40 40

【日照時間】 30 40 30

■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)

週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目 10 20 70

2週目 10 10 80

3～4週目 20 30 50

■低い ■平年並 ■高い

1週目:8/12～18、2週目:8/19～25、3～4週目:8/26～9/8

生育調査結果(8月10日)

表1 開花期と8月10日の生育調査結果

品種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			開花期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/20	+10	+8	8/04	+5	+5	49.8	+13.2	-8.9	12.3	+1.1	-0.2	2.5	+0.8	+0.3
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/26	+4	+15	8/06	+4	+5	43.9	-3.5	-5.2	10.6	-1.6	-2.3	1.2	-0.3	-0.8
ミヤギシロメ (普通)	小船越 (河北)	6/03	+1	-13	7/31	-3	-11	86.3	+0.9	+26.9	14.7	+0.4	+2.5	2.6	+1.2	+0.4
ミヤギシロメ (麦あと)	城内 (桃生)	6/21	+0	+1	8/08	-5	-5	68.4	-3.2	+8.5	13.1	+0.0	+1.5	1.8	-0.6	-0.1

※1 平年差・比: H30～R4の5か年平均(平年値)との差・比

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す

◆タンレイでは播種日が平年より遅れたため、開花期が遅れ、主茎長・主茎節数が平年を下回りました。

◆タチナガハでは播種日が平年より遅れたため、開花期が遅れ、主茎長・主茎節数・分枝数が平年を下回りました。

◆ミヤギシロメ2ほ場では播種日が平年並か早かったため、開花期も早まり、主茎長・主茎節数が平年を上回りました。

今後の管理

タンレイは紫斑病対策を、ミヤギシロメ・タチナガハは害虫対策を優先しましょう！

◆病害虫対策

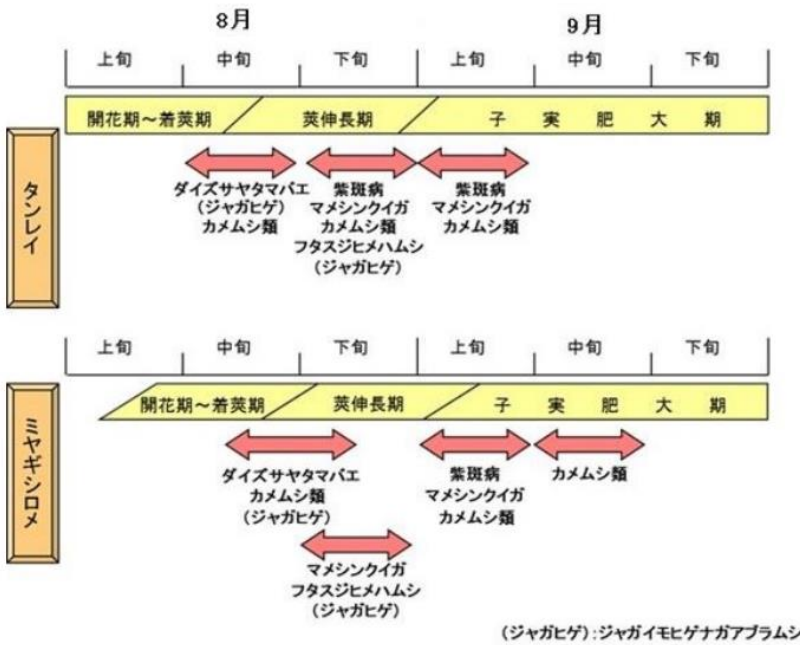


図2 大豆病害虫の同時防除体系図(標播)

<8月下旬までの発生予報>

- ・紫斑病 平年並
- ・アブラムシ類 平年並
(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)
- ・ウコンノメイガ やや少
- ・**吸実性カメムシ類 やや多**
- ・フタスジヒメハムシ やや少
- ・マメシンクイガ やや少
- ・**食葉性チョウ目幼虫 やや多**
(オオタバコガ、ツメクサガ)



宮城県病害虫防除所
発生予報第7号-大豆-(8月7日発行)より

宮城県病害虫防除所
病害虫ライブラリー

◎紫斑病 … 開花期の20～40日後に防除

「タンレイ」は紫斑病抵抗性が「やや弱」なので、**2回の防除**を徹底し、**1回目は開花期後25日頃、2回目は開花期後35日頃**に防除を実施しましょう。

※開花期は「1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日」

<感染しやすい気象条件>

◎開花期後10～40日の降水量が多い

- 開花期後約10日以前の莢には菌が感染しにくい
- 開花期後約40日以降の莢に感染しても、成熟期までに子実に菌糸が届かない

◎成熟期前後の降水量が多く、気温が高め

- 雨で子実水分が上がると、菌糸が侵入しやすくなる
- また、刈取が遅れるため発病期間が長くなる
- 気温が高いと子実に到達できる菌糸が増加、発病適温は20℃前後



- 菌糸発育及び胞子発芽の適温 20～30℃
- 病斑形成の適温 20℃前後

- 降雨は、菌糸の発育を促進するとともに、胞子の拡散を助長

表2 開花期別防除時期の例(タンレイ)

品種	開花期	7月							8月														9月						
		...	中旬	...	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
タ	8/01																												
	8/05																												
ン	8/10																												
	8/15																												

＜ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果＞

◎ 紫斑病の発生が多い「タンレイ」については、**適期防除と薬剤の選定**が重要です。

◎ プランダム乳剤25 (FRAC:3) がアミスター20フロアブル (FRAC:11) と同等の高い防除効果が得られることが確認されています(図3)。ベルコートフロアブルは、2022年10月に登録がなくなりました。

◎ 耐性菌発生リスクがあるので、**同一剤の連用は避けましょう。**

令和5年8月8日の農薬登録内容を基準に作成しています。農薬散布を行う場合は事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。

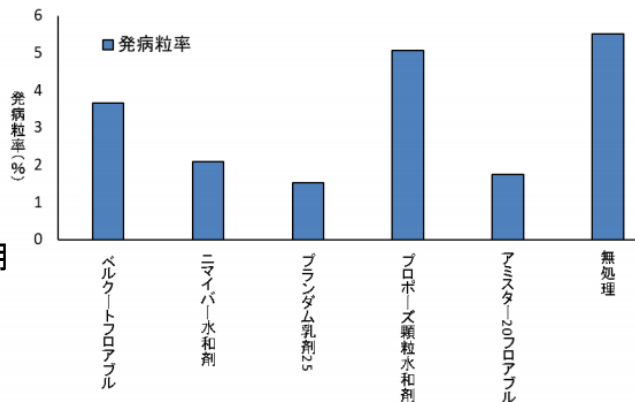


図3 供試した薬剤の発病粒率

※タンレイほ場にて開花31日後及び37日後の2回散布した試験結果

◎ 吸実性カメムシ類

・開花期以降に発生が見られるほ場では、着きょう期と子実肥大中期の2回薬剤を散布します。越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなる恐れがあるので注意してください。

主な病害虫防除薬剤は、「麦・大豆栽培技術マニュアル」(令和5年3月、編集・発行:いしのまき農業協同組合、監修:宮城県石巻農業改良普及センター)の69ページを参照してください。



宮城県「普及に移す技術」第95号

「ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果」

◆ 雑草対策 **収穫時に残った雑草は汚粒の原因になり品質低下につながります ほ場に種子を残す前に対策をしましょう！**

◎ タデ類、シロザ、アメリカセンダングサ、イヌホオズキ等の雑草が収穫時に残っていると汚粒の原因となるため、非選択性除草剤の畝間散布(雑草草丈約15cmまで)や手取りで除草を行いましょう。

◎ 9月以降、多くの雑草が開花して種子をつけ始めるため、イヌホオズキやアレチウリ、アサガオ類等の難防除雑草の多いほ場では、早めに除草を行いましょう。

アレチウリの防除対策は 普及に移す技術第90号)に詳しい掲載されています。また、アレチウリは‘外来生物法’によって「特定外来生物」に指定されており、生きたまま移動させることが禁止されています。防除を行う際にも、生きた植物体(発芽可能な種子も含みます)を発生区域外に持ち出さないよう十分に注意してください。



宮城県「普及に移す技術」第90号

「大豆作における難防除雑草アレチウリの対策」

◆ 湿害対策

◎ 大雨のあとや降雨が続く際は、ほ場を見回り、排水状況を確認しましょう。

◆ 乾燥対策

◎ 大豆は開花期以降、大量の水を必要とします。土壌の過乾燥は、落花・落きょうによる減収の原因となるので、晴天が7日以上続いて土壌が白く乾燥し、日中の葉の反転が半分以上となるような場合には、畝間かん水や暗きよの水閘(こう)を閉じるなどの対策が必要です。